



豊田 理桜さん
(下延生)

若者の力で芳賀町を活性化

私は、これまでずっと芳賀町に住み無事に成人を迎えることができたのは、家族、そしてあたたかく見守ってくださいました地域の皆様の力があつたからです。この場をおかりして感謝を申し上げます。

芳賀町の人口は年々減少し、高齢化率は約30%であると聞きました。人口が減少し、若者も減っている状況は芳賀町の将来にとって不利なことだと思います。そこで、例えば“私たち若者を主体とするチームで新しいイベントを企画し運営する”のような地域おこしができればと思います。若者が町のイベントに携わることで町への愛郷心が芽生え、また芳賀町に戻ってきてくれると考えます。そして、若者がイベントに携わることで若者目線のイベントができ、町外からの人も集まってきて、町がさらに活性化することを望みます。だから、そのような企画をぜひ検討していただきたいです。

私たちをすくすく育ててくださった芳賀町に今度は私たちがお返りする番だと思います。後世の子供たちにこの素晴らしい芳賀町を残せるよう、町が一体となって考えていく必要があると私は感じています。



綱川 琴絵さん
(給部)

これからの芳賀町

私は大学進学までの18年間を芳賀町で過ごしました。約2年間芳賀町を離れたことで、改めて気づくことができました。

芳賀町は美味しい果物や野菜が育つ、自然豊かで心落ち着く土地です。その一方で町内には文化的・娯楽施設が少なく、気軽に様々な体験をすることが難しいと感じます。実際、遊びや習い事のために時間をかけて町外へ行く人は多いのではないのでしょうか。今後はLRTの開通によって、町内外への移動が便利になります。同時に町内施設を充実させることで長距離移動が負担となる高齢者の楽しみが増える、若い層が町に留まるなどの効果があり、より活気のある町になるのではないかと思います。

長い間支えてきてくれた家族や友人が住んでいる愛着のある芳賀町が、さらに住みやすく魅力的な町になることを願っています。



和久 晋太郎さん
(西水沼)

自慢の帰省先・芳賀町

社会に生きる人びとを取り囲む現実には、生々しく、渾沌としている。

宮城県仙台市の大学に通う私は、サークルに所属しボランティア活動を行っています。東日本大震災を中心に、熊本地震や西日本豪雨の支援を行う中で多くの地域住民の方々に出会いました。仮設住宅の自治会長や輪の中心にいる住民の方々は、優しく・強く、生き生きとしていました。しかし、一方でその方達の生活は困難な状況にありました。固より存在した経済的、福祉的そしてご家族の問題が顕在化し、復興への見通しが立たない方も多くいたのです。私は、その元気なお姿と息苦しい環境との間にギャップを感じ、現実を突き付けられたように感じました。

私の生まれ育った芳賀町。この芳賀町ではどれほどの社会課題が潜み、人を、町を悩ませているのでしょうか。町民それぞれが自らの生活に努め、周りもそれをサポートするような雰囲気・仕組みがより整った、自慢の芳賀町にまた帰省したいです。